

令和6年度 湖南省地域公共交通会議 議事要旨

日 時	令和7年2月20日(木) 15:00~16:30
場 所	サンライフ甲西 2階 大ホール

開会

事務局：委員27名中20名の出席があり、過半数を超えていることから、会議は成立している。

1. あいさつ

会 長：バスのドライバー不足は、来年度以降も続く。今、バスに限らず、鉄道も運転手、つまり支える方が減ってきている。九州では、朝のラッシュ時間帯に運転手がいなかったために運行できないということになっており、募集条件が、朝4時間だけの勤務で、時給1,700円という時給制でやるというものである。それでも、たぶん応募は来ないだろう。人に投資をしなければならないが、投資する資源がないというなかでのジレンマに陥っている。そうすると、ドライバーを公的機関で雇用していくか、もしくは、それ以外の方法で維持することも可能だという考え方になる。つまり、鉄道・バスを残す目的ではなく、地域の移動を維持する目的ならバス以外の方法もあるという考え方である。午前中に伺っていた地域でも色々と検討されていたが、いずれにしても、今人気のライドシェアなど、響きがいいが、結局、誰かがハンドルを握らないかぎり、地域の移動を支えることができないのが現実である。そういうことも踏まえながら、地域に最も適したものを皆さんで模索していきたい。

ただ、このまちが他と違ってすごく未来があるのは、通勤で電車やバスを使う方がたくさんいらっしゃることである。今、通勤・通学での電車やバスの利用者がいなくて本当に困っている地域がたくさんあるなかで、ここでは生徒さんたちにたくさん使ってもらっている。まだまだ未来があり、伸びしろのある地域ではないかと思うので、諦めずに新たな方法を模索していければと思う。

2. 議事

(1) 報告事項

コミュニティバス小学生以下運賃夏休み無料キャンペーンの結果について

事務局：資料1により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

委 員：このキャンペーンは、子どもたちにコミュニティバスに親しんでもらえるという点でたいへん良い企画だったと思う。その上で、747人の対象者からアンケートの回答が33人というのは少ないのではないかと思う。このアンケートの結果から、何かしらの結論を出すには、少々躊躇する数ではないかと思う。もっと回収方法を考えてほしい。

また、結果は分かるが、この結果についての評価がなされていない。次年度も実施する、あるいは実施したほうが良いというのであれば、当然今年度の企画についての評価を出した方が良く思う。また、この企画の事業費について何も書かれていないことにも疑問を感じる。

事務局：この事業の評価についての指摘をいただいたが、今年度初めての取組みの中で、指摘どおり回収できたデータは少なかったように思う。次年度は、調査媒体を工夫するなどして、より多くの意見・声が寄せられる形を考えて取組みを進めていきたいと考える。

加えて、評価については、今回の事業予算が、一昨年度も同様であるが、予算計上をして

おらず、すべて職員の手弁当で段取りを行って取り組んだこともあり、十分に行うことができなかった。次年度においても、職員が中心となって段取りや検証を行う等という点については継承しつつ、現在、広報媒体としての印刷製本費だけを要求している。これが認められれば、広報媒体を活用して、市民に広く周知していきたいと考えている。

部会長：鈴木委員の指摘は、まさにそのとおりだと思う。次年度も同様の取組みを行うのであれば、アンケートに答えることがデフォルトになるような形でやっていいのではないかと思う。強制しないまでも、必ず答えていただくような形を取ってもよいのかもしれない。そして、今後、事業化して、より大きく展開、継続するならば、きちんと予算化したほうが良い。今回の評価としては、700人以上の方に参加していただいたということで、これはポジティブに捉えてよいと思う。今回参加された方が、これからの1年間で地域公共交通をどのくらい使われたのか、使っていなかった人がどのくらい使ったのか等というようなことを評価指標として組み立てればよいのではないかと思った。

会長：ほかにないか。なければ私から。保護者が261人とあるが、これは延べ人数なので、実際の実人数はこれよりもずっと少ないだろうと思うが、アンケートの回答数とそのなかの33人ということなら、打率としては、アンケートとしては割と高い方であると思う。そして、アンケートに答えるときは、だいたい不満が多くなる傾向があり、こうすればよい、ああすればよい等という声があまりなかったところを見ると、割と子どもたちが楽しく参加できたのだろうと推察される。

したがって、次年度も引き続き実施するのであれば、部会長がおっしゃられたように、前年度の評価とその間の変化を知るため、前年度のキャンペーンに参加したかどうかや、参加した結果、その後のバス利用が増えたかどうか等についてお尋ねするとよいのではないかと思う。「増えた」というデータはあまり出てこないかもしれないが、変化がなくてもいいので、変化がどうだったかということは捉えておいていただきたい。

また、アンケートの回収率を上げるには、応募していただいたらお米が当たる等というような方法も考えられる。今の時期なら、きっとお米が一番ヒットするかと思う。あるいは、チケット自体にQRコードを載せてそれを読み込んでもらうことができるようにすれば、時間のある移動中に回答してくれる率は上がるのではないかと期待されるので検討いただければと思う。何よりも、ふだんあまり子どもたちが乗っていないなかで、これだけの、延べ500人弱というのは大きなことである。参加した人数としては、多くのイベントの中ではかなり打率がいいと思うので、皆さんにもそういう思いを持っていただきたい。今後、中学生の夏休み中の移動支援として、例えば草津線全線に乗っていい、塾に行くにも、映画を観に行くにも自由に乗っていいというような感じでの取組みを行うことで、草津線自体に対する心理的な抵抗を下げることができれば、高校になってからの通学に草津線を使っただけのことにも結び付けていくことができるかもしれない。草津線の利用者増に繋げていくことができれば、増便していただくことを目標として掲げていきたい、という夢を持っている。

続いて、協議事項に移る。

(2)協議事項

第1号議案 令和7年4月1日コミュニティバス路線・時刻改正について

事務局：資料2により説明。

会長：質問、意見はあるか。

委員：まず、事前資料の中で、いま議論している議題については、既に自動車部会で方向性に

ついて承認を得ていると書いてあるが、これはこの会議の規約の9条と2条の関係だろうと思うが、このあたりはどのように理解すればよいのか。

次に、資料2の時刻改正の「方向性」のなかで、12月議会での市長の所信表明で、“コミバスは、通勤・通学に主軸をおき、生活圏内の移動については地域まちづくり協議会に”と言われた。

これは、生活交通については地域で取り組んでいくという主旨なのではないかと思うが、生活圏内とは、買い物や商業施設などを意味し、住民が行くのはコミバスではなく、地域でやろうとされているところがあるが、そういうところにやってもらいたいという、そういう方向性を打ち出していきたいということか。

また、前回もお尋ねしたが、時刻表のなかに示されている矢印のところについてお尋ねしたい。バス停の名前が書いてあって、右の枠内が矢印になっているところは、バス停に人が立てば、矢印のところはバスが停まってくれるのか、または降りるのか、そういう意味の矢印なのかどうか。もし矢印のところのバス停に人が立っていたら、バスは止まらないといけないのかどうか。そこに停まることによって時刻が狂ってくると思うが、そこがよく分からなかった。

事務局：まず、部会と委員会における関係であったり、その取り扱いについてだが、まず、各部会で、事務局から提案している個別具体的な議案について、それぞれが専門という立場で協議し、部会において決定する。そして、その決定内容を設置要綱に基づいて交通会議に諮ると規定している。

したがって、今回の時刻改定については、部会のなかでそれぞれの路線について議論し、方向性について承認していただいたので、今回の議案として上程している。

委員：ということは、最終的には、この会議で決定するという理解でよいのか。部会で承認していることという文言にこだわってしまっている。

9条のところに、自動車部会のほうで議論されて、その協議が整った場合は交通会議において整ったものとみなす、というふうに書いてあり、これについてもある意味決定されていて、この交通会議は形式的にしかしないように受け取ってしまったので質問させていただいた。

事務局：今後においても、各議案については必要に応じて部会に諮り、そこで承認されたものを委員会に諮るという流れになるかと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

市長の所信表明については、御存じのとおり、コミュニティバス単独では輸送が限界となってくるので、地域の方々とは協力しながらやっていくという意味である。

また、バス停の時刻については、矢印のところはバスは停まらず、時刻が記載されているバス停にだけ停まるということである。実際のバス停にも、同じ時刻表が掲載されているが、バス停に掲載されている時刻表をみていただければわかるようになっている。

会長：矢印は、そもそもそこにバスが来ないことを意味している。通過するのではなく、他の道路を走っていて、そもそも通らないというパターンである。

委員：昨年は、時刻改正が大規模だったということもあるので、色々話をさせてもらったが、今回は、細かいところも含めて、できる範囲で一生懸命考慮いただいたうえで改正いただいたことを評価、感謝している。

そのなかでも、個人的な要望や個別の事情にはなかなか応えられないというのは原則であろうし、そういう話が去年もあったが、色々な地域の団体や区長等を通じた要望があったと聞いている。住民が不自由だ、不便だ、危ない等と感じたときに、どのように要望等を出せば、円満に聞いていただけるものなのか。区長や議員を通じたほうがいいのかどうか。

最終的には、総合的な判断という答えになると思うが、それ以外でうまく意見を聞いてもらえる方法はないものなのか。

というのも、去年の各地域の懇談会で、市の担当者からもう決まっていることだからと聞いてもらえなかった等という苦情を多く聞いている。

このように一生懸命やってくださるのだから、もう少し温かく、気持ちの伝わりやすい形はないものかと思った。もっと市民と温かい関係を築くことができればと願っているので、スムーズに要望を聞いてもらえるような形があれば教えてほしい。

事務局：現在、本市には43区あり、地域のお困りごとや相談ごとについては、地域の代表である区長を通じて、我々の窓口のほうに相談していただきたいと思う。

そのなかで、地域公共交通の利用においては、利用者である住民の皆さまの要望に応じた路線体系を組むことが望まれるので、そういう声を多くいただけるように区長を通じて要望を出していただければ、我々のほうも最大限の努力をしていきたいと考えている。

委員：方針としてはそうなのかと思う。ただ、地域により、また区長により、理解度や熱心さが違うので、そういう事情も担当の方にはぜひ考慮いただきたい。

それから、路線や時刻という単純なことだけでなく、市の考えや、市民の代表である地域公共交通会議の考え、つまり路線が増えすぎたら運行できなくなって困るというような細かい地域のことだけでなく、地域公共交通全体のことも市民に知ってもらいた。住民との懇談の機会があるなら、そういう基本的な考え方も、できるかぎり簡単な形で伝えてほしい。それは、私たちにも勉強になるし、役に立つなら、その会に出席することもできると思う。

事務局：今後も、市民や利用者の方に「伝える」ではなく、「伝わる」ように努力をしていきたい。そういったことに心がけ、バスの利用がより多くなり、守り・育てていただけるような「伝わる」提供ができるよう取り組んでいきたい。

会長：ほかはないか。どのようにしていけば、自分たちの考え・想いが伝わるかということだが、別の町での取組みであるが、かなり具体的に、例えばバス停でここが危ないとか、具体的な様子が見えると対応しやすいということがあった。また、便の時間変更でも、電車との乗換時間が危ういからもう少し早めてほしい等というように、より具体的な内容であれば、利用される方のお困りごとになるので、できる範囲でやりやすいという話が、さらに別の町であった。

ただ、この町では、利用者がかなり多いということもあるので、ある人の意見を通すと、別の10人が困ることにつながるようになるかもしれない。

今回の改正では、そういったことも含めて検討したことを理解していただきたい。

また、市長の所信表明のことが書かれていたが、実際のところ、滋賀県が作ったデータを見てもおわかりいただけるとおり、令和6年で運転手が499人いても53人不足している。つまり、本来であれば、552人いなければ事業は回らないということであるが、令和元年からみると、ずっと運転手が足りていない状況がうかがえる。

しかも、これは便数が減った上での53人不足なので、令和元年の頃はかなり厳しい状態で運行していたことが予想される。だから、今後このままコミュニティバスという形態で、サービスを維持するのは、もって10年くらいではないかと思われる。

バスのドライバーの全国平均年齢は53歳ぐらいであり、その方々が60歳で定年だとすれば、定年延長を踏まえても、今後のサービスを維持していくことはかなりしんどくなると思われる。

その間に、子どもの数はどんどん減っているなので、バスに限らずさまざまところで労

働力不足が出てくる。

そうすると、当面は別の移送サービスを行っている方の協力を得るなど、みんなで助け合って取り組んでいかないと、今後しんどくなるということが言われていることも容易に理解できる。

コミュニティバスでもやっていくが、そこで賄いきれないところは、他の移送サービス等と協力していくことが望ましいかと思う。

京都府内の人口がまだまだたくさんいるところでも、工場の従業員の輸送とうまく絡められないかとさらに着手しているが、なかなか合意形成に至らないというのが現実なので、この町でも一刻も早く検討をスタートしていただきたい。

私からひとつ、時刻のことでお願いがある。今後、配慮していただけるとよいと思うのは、遅延がかなり厳しいのでダイヤを早めたという 19 ページの話であるが、これはまったくそのとおりでと思う。

もし毎回の遅延データが取れるのであれば、ダイヤ自体を少し寝かした方がいいと思う。理由は、石部の駅から西御旅まで、行きは1分で行っているのが帰りは22分とってある。これは、遅れることを前提でダイヤを組んでいる。バスは早発したら絶対ダメなので、遅れることを前提としたダイヤにせざるを得ないのはわかる。だから、終点までの最後のひと区間を長めにとるとということもわかるのだが、あまりにも取り過ぎると Google Maps で検索したときに、西御旅で降りて石部の駅まで歩いたほうが早い等という検索結果になってしまうかもしれない。

例えば、高校に入学して初めての子が Google Maps で調べて、“あ、こんなや。おかん、西御旅で降りるわ”等ということになって、実際に“えー”ということが起こるのではないかと思う。

最後の一区間に時間の余裕をとることは十分にわかるが、今後でいいので、ぜひうまく遅れのデータと合わせていただきたい。ダイヤを作るのは、とても大変だということもわかっているので、少し寝かしておいてもらったらと思う。

部会長：いま井上会長から言われたとおりだが、今日の午前中の会議でも住民からの要望で時刻のことを言われた。路線を引くときは色々あり、団地から駅までという単純な路線であれば、そういった要望に基づいて時刻改正をするのは当たり前だが、一つの路線の中に病院や学校、スーパー、駅などの目的地となりうるものが複数あるときは、それぞれの目的に対して利用者の要望があるため、会長がおっしゃったような問題が出てくる。ここで大事なポイントは、なぜ要望に沿うようにできないのかということ、ご要望の最大公約数をとっているということなどを、どこかのタイミングできちんと説明する

ことである。そうしないと、“ダメだ”“それは難しい”“できないよ”などということだけを言ってしまうと、住民は“えー”となって納得してもらえなくなる。

反対意見をお持ちの方にも、理由を知ってもらうことが大事だと思うので、なかなか納得はしていただくことはできないかもしれないが、関係者には色々な機会に丁寧な説明をするという対応をお願いしたい。もちろん、バス協会や交通事業者も同様に説明をしっかりとっていただきたいと思っている。

会 長：ほかはないか。

部会長：先ほどの園田委員の言われたことがたいへん興味深く、懇談の機会の話をもらったと思う。これからバス路線がどんどん減便になっていくだろうが、どうしても地域公共交通会議や行政としては報告や謝罪が、市民側からはお願いや要望があるだろう。この2つがいつまでも平行線で、対立したまま進んでいってしまっているのが今後の構図となる。

そこで、折衷案を探す場というか、対応の機会づくりがとても重要だと考える。エリアでいうと、まず区長の会があるので、ある程度意見の集約はできると思う。一つ問題を考えたとして、エリアとテーマがあり、テーマ型としては、テーマごとにワーキングや部会のようなことを地域公共交通会議に紐づいてやっていくのも一つの案かと思う。

例えば、他の地域では、高齢者部会、通勤・通学部会、観光部会というような形で、地域公共交通会議よりも少しざっくばらんに話せる場、機会を作り、住民からすれば「会議」では話しづらいが、ワークショップやワーキンググループだと話しやすかった等ということ言われたこともある。ある意味、地域公共交通会議というのをアウトリーチというか、地域の場に出していくような手立てが一つ必要ではないかと思っている。

市役所からも、各部署の部長がこの場に出てこられているが、テーマごとに部長の出て行く場所を変えてもらうのも一つで、もちろん我々も含め、関係者が各地域に行って議論するのも一つの方法だと思う。

関係者間での相互理解を深めることを目的としている。市民からすれば、これだけバスの運転手が不足しているという現状を知らないのだと思う。勉強会のような堅苦しいものではなく、現状の報告や住民側からの困りごと相談のようなことを話せる機会として実施してはどうか。今すぐでなくてもいいので、次年度以降にでも検討していただけたらと思う。そのような場があれば、恐らくそこから、こういう輸送資源が活用できるのではないか等という逆の話も出てくるのではないかと思う。例えば、うちの事業所にある車は、この時間は使っていないよ等というような相互作用のある機会づくりである。求めるというとハードルはとても高いので、みんなと一緒に考えませんかという提案である。

会 長：他に質問、意見はあるか。

草津線のダイヤ発表後に事務局で微修正をするという方向で進めてよいか。第一号議案について異議なければ挙手を。承認いただけるか。

一 同：挙手全員

会 長：ありがとうございました。本議案は、承認とする。以上の内容で進めてもらいたい。

また、利用者数などは4月以降も刻々と変わっていくと思うので、定期的にデータのほうはしっかりと取りながら、なるべく利用者に不便が生じないように、柔軟な変更を行っていただきたい。どうしても、どこかでビックリするようなことが起きると思うので、データのほうはしっかりと取っていただいて、皆さまに共有してもらいたい。

第2号議案 地域公共交通確保維持改善事業の変更について

事務局：資料3により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

特になければ、23ページまでの変更内容を考慮し、書類を添えて国に提出しなければならないので、内容を説明した。協議事項として手続きが必要なので意思表示を求める。

第二号議案について異議なければ挙手を。承認いただけるか。

一 同：挙手全員

会 長：本議案は、承認とする。内容については、再度精査して提出する。

では、これにて会合を終わり、進行を事務局に返すが、毎回、出席の皆さまから建設的な意見や色々な質問が出る、たいへん良い会議だと思う。なかなか意見も出ないままの会議も本当によくあるなかで、皆さまからは些細なことでもいいので、よくわからないことやこれはどういうことなのか等という質問が出てきて、皆さまと話すことによって着

地点を見いだせることもある。今後も引き続き積極的な意見をお願いする。

委員：一つお聞きしたかったことがある。公共ライドシェアのような取組みで、いま休止している「あいのりこなん」の検証結果等が示されている報告書のようなものを、行政のほうで作られているのかどうかということと、もし今後を考えているなら改定すると思うので、その内容についても教えていただきたい。

また、JR 草津線のパンフレットで甲南駅以東の利用者数がものすごく激減していることにたいへん驚いた。その理由がわからない。コロナも終わり、たぶん他のところは回復していると思うが、このままでは草津線が危ないのではないかと思った。このパンフを読んで初めて実感した。なぜ、柘植のほうまであれほど減ったのかと疑問に思い、その件について教えていただきたい。

事務局：予約制の小型乗合事業である「あいのりこなん」については、令和4年4月から2年間、道路運送法の第21条許可を得て、2年間の実証運行を行った。これを受けて、令和6年7月に当該事業について事後評価を行った。この事後評価については、8月に資料を活用して各議員に運行の報告と勉強をさせていただいた。その会議においては、本日出席している各部長級の出席も得て、共有させていただいた。事業は、経過とともに利用者の満足度は上昇している結果となった。しかしながら、支出する事業費については反比例して高い数字となっていた。それで、事業における費用対効果を検証するなかで、本事業を継続していくためには、一定以上の費用がかかることになるため、休止ではなく、一旦終了ということを判断させていただいた。

委員：結果は了解するが、せつかくお金や時間、利用者の負担をかけた社会実験だったので、これから向かうべきもの、得られるものをきちんと把握し、考えておかないともったいないことになると思っている。

これは、一つの市の交通計画のなかでも取り上げられていたものだと思う。相乗りでやっていこうということも書いてあるので、何が悪かったのか、どうすればもっと良くなるのか等ということをもっときちんととりまとめて出していただきたいかった。

お金がものすごくかかったからとか、利用者は多かったですくらの総括では、たいへんもったいない事業ではないかと思う。

事務局：さまざまな市町で、移動手段をどう確保するかという取組みは、それぞれの町にフィットするような取組みが色々となされている。その中で、他市・他町が実証し、成功されている事例だからといって、それを本市に持ち帰っても、それが果たして湖南省に根付く事業になるかということについては検証していく必要があると思う。

しかし、それが地域に合うかどうかということは、トライ（実証）していく以外にはなく、机上ではできない部分もあるので、今後も湖南省に根付く、または継続的に運行していくことのできるような実証運行に引き続き挑戦していきたいと考えている。

その過程において、いまおっしゃっていただいたような、ひょっとすると無駄と思われるか、先につながる事業であったと思われるのか等ということについては、市がしっかりと説明していくことができるように役割を果たしていきたい。

会長：草津線についてはどうか。

事務局：JR草津線の利用については、貴生川以東の利用人数が減少しているという話だが、現在は湖南省も沿線市町で構成する草津線複線化促進期成同盟会の一員として、この草津線の利用向上につながる取組みを行っているところである。

近年は、利用向上のほか、利用促進につながるさまざまな取組みを、地域や沿線事業者の皆さまと協力しながら行っている。

こういった評価や効果の出る部分については、事業の取組みと比例して、今後は少子化で学生の数も減ることを加味して、全体としてこういった形で草津線を守っていくのかということは、同盟会の一員としても取組んでいきたいと考えている。

いまは、利用者数について細かく把握していないので、具体的な人数についてお答えすることができず、たいへん申し訳ないが、よろしくお願ひしたい。

会長：草津線の貴生川から先は、昨年度、他の件で関わっていたが、正直なところ、人口がもうかなり減っている。元々少ない地域が、さらに減ってきている。

住民は基本的に車での生活なので、何もない駅前に来るわけがない。電車の時間に合わせて生活したくない、どこに行くにも車が便利、買い物は平和堂等ということになれば、鉄道を使う人はどんどん減ってくるわけである。

鉄道は、車を使えない人たちがしぶしぶ使っているだけという状況がどんどん進んでいる。私が高校生の頃は、おじいちゃんやおばあちゃんはまだ車を運転できない世代だったが、今は車を運転する世代となっている。車を使う人たちがずっと、どっぷり 40 年くらいも車を使いながら生きてきているので、いまさら草津線を使うわけもない。

コロナが原因ではなく、来るべき人口減少とライフスタイルの変化がきたから、このような状況になったというのが私の結論である。

したがって、草津線の廃止は、この先あると思う。それでも、たぶん困る人はごく一部で、多くの人たちは車を使うだろうと思う。

だから、いまここで少しでも通勤や通学でしっかり支えないと、廃止はいつ来てもおかしくない。中学生や高校生の通学支援は、皆さまで支援できればと思っている。

3. その他

事務局：その他資料（部外秘）により説明。

事務局：委員より発言があるか。

この資料については、先ほど野村部会長からもご発言があったが、多様な世代とテーマごとにワーキングをする、というもののなかの高校生スタイルでの一つの形となるのではないかと考える。

本当は、今日ここで発表してほしいと依頼したが、明日から試験だということで、それは叶わなかったが、今回については快く資料を提供してもらったので事務局から発表させていただいた。

今後についても、高校生を始めとして、これから利用していただける世代と、テーマごとのワーキングの場を提案していきたい。

それでは、本日事務局から提案させていただいた協議事項の 2 議案について、皆さまからご承認いただきありがとうございます。

地域公共交通については、冒頭に委員長からお話がありましたが、日常生活や経済活動を支える社会的基盤として重要な役割を担っている一方で、運行体系の維持や移動の確保が年々難しくなっている。引き続き、委員の皆さまのお知恵やご指導によって、地域交通の役割が果たせるよう取り組んでいきたいと考えている。次年度についてもよろしくお願ひしたい。

部会長：部外秘の資料の件だが、これはものすごく面白い資料だと思う。ビジョンというか、将来像みたいなものが描いていると思う。

先ほどの話と関連するが、兵庫県の丹波篠山市で地域交通公共計画を立てる際に、地元の高校の探求学習と連携して実施したことがある。そこでは、地域公共交通会議に

通勤・通学部会というのがあり、その部会の企画の一つとして、高校に出向くことをした。会議からは、私と事務局の市の方、それからバス会社の方でダイヤ調整をしていただく方と一緒に高校に赴いていった。一つのテーマとしては、部活帰りの時間のバスの時刻が少しずれているという高校生たちからの提案であった。どの時間ならいいかというのをきちっと研究して、それを提案という形で、高校生が出してきた。高校生がこういった会議の場に来るとすごく仰々しくて難しいと思うので、そういうときに気軽に参加できるような、別の場があればいいのかなと思う。まさにこういった議論できる場というか、小部会みたいなのがあればいいと思う。

事務局：ありがとうございます。

それでは、本日の予定はすべて終了いたしました。長時間深慮賜り感謝する。

最後に橋本副会長から閉会にあたっての挨拶をお願いする。

4. 閉会あいさつ

橋本副会長：本日は、熱心に協議いただき、誠にありがとうございました。

夏休みのバスの乗車体験をご紹介させていただいたが、これはどういう目的で取り組んだかということ、一つには将来の利用者を確保することである。将来利用してもらうためには、小さい頃から自らの身近な移動手段としてバスがあるという意識を持ってほしいということで取り組んだ。私自身、700を超える利用があるとはとても想像していなかった。アンケートは33件と少なかったが、我々がこうあってほしいという回答の内容となっていたのは事実である。そういったこともあり、今後も継続してはどうかと考えている。

もう一つには、草津線の話も出たが、こちらについても議論の俎上には挙がっていることをお伝えしておきたい。

地域公共交通は、年々重要性が増す一方で、取り巻く環境はとても厳しくなっているため、今後、この会議の重要性がますます高くなるものと考えている。

この中で、市民の移動手段の確保の取組みに向けて、先ほども話に出ていた、地域の取組みとその拡大、例えば、医療機関でも自ら送迎サービスをしているところもある。今後は、視野をもっと広げて「移動」を考えていくことが重要だと思っている。

関係各部署におけるプラットフォームを作って取組みを進めていきたいので、引き続き皆さまのご協力をお願いしたい。

事務局：それでは、本日の会議を終了する。

以上